

みおつくし 福祉・介護の仕事 きらめき大賞選考会

【開催】 令和3年8月24日

【委員】 座長 宮崎 恭子 (大阪城南女子短期大学 准教授)
 座長代理 堀江 幸代 (社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 地域福祉課長)
 委員 浅野 幸子 (公益社団法人 大阪介護福祉士会 会長)
 委員 前川 阿紀子 (公益社団法人 大阪社会福祉士会 会長)
 委員 田中 綾 (一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 理事)
 委員 瀬戸 康男 (大阪市障害児・者施設連絡協議会 役員)

【講評】

賞	タイトル/受賞者	講 評
最優秀賞	「さようなら」は 悲しい言葉じゃない 松井 由佳 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム こうのとり	「出来なかったこと」をできることにしていく経過を「さようなら」と表現するタイトルと内容のギャップが面白く、読みやすい作品であった。限界を決めつけなくて、「まだできるのではないか」という可能性に柔軟に対応する姿にチームとしての力を感じた。
優秀賞	「0.1 歩のあなたで良いんだよ」 ～リバーシブルな関係性を通じて～ 久保 一弥 社会福祉法人 ライフサポート協会 生活訓練つみき	障がいのある方、一人ひとりに寄り添う支援に事業所全体で取り組まれており、利用者主体の伴走型支援がうまく描かれているように感じた。小さな変化を大切にしながら少しずつ前進していく「0.1歩」という言葉選びが巧妙であった。
優秀賞	見えない可能性 ～意向のままに生きられる人生～ 大林 明真 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム こうのとり	認知症の高齢者が転倒により骨折し、そこから多職種で連携して、チームとして結束していく様子をわかりやすく描かれた作品であった。身の回りのお世話だけでなく、利用者にとって何が大切かを考え、実現する介護の仕事の醍醐味が伝わる作品。
特別賞	エンジェルと歩んだ 10 年 宮川 祐一 社会福祉法人 大阪府肢体不自由者協会 大肢協ヘルプサービス	利用者との10年間の関わりでお互いに成長していく姿が描かれており、支援を通じて得られる変化の喜びが伝わる作品であった。長く関わり続ける福祉の仕事の役割を改めて感じた。
特別賞	猫と共に 小山 多佳子 社会福祉法人 ライフサポート協会 小規模多機能型居宅介護きずな	利用者とその飼い猫との関係を通して、その人らしく最期まで暮らすこと、それをいかに支えるかについて検討し、様々な連携により丁寧に関わる様子が伝わる作品であった。